

秋田県・岩手県平鹿炭田の放射能強度

高橋 兵一*

要 旨

本地域の地質は、第三系中新世の大石層・小繫層・山内層および黒沢層と、鮮新世の花山層および芳沢層が広く分布しているほか、第四系の河岸残丘礫層からなっている。

以上のうち夾炭層は花山層で、本層中にはA亜炭層群とB亜炭層群に分けられる約10層の炭層が知られている。そのうち現在稼行されているものは、B1、B5の2層である。

地域内での稼行炭鉱は、西和賀・湯田・平和の各炭鉱で、今回それらの各炭鉱のほか、休山中の炭鉱、あるいは露頭等から測定した各炭層の放射能強度調査の結果

第 2 表

時 代	層 名	岩 質
第四系	河岸段丘礫層	砂・礫・粘土層
鮮新世	芳 沢 層	〃 〃
	花 山 層	夾 炭 層
三 系 新 世	黒 沢 層	青色砂岩層
	山 内 層	硬質頁岩層
	小 繫 層	凝灰質砂岩・頁岩層
	大 石 層	緑色凝灰岩層

第 1 表

炭 鉱	位 置	交 通 ・ 運 搬	備 考
西 和 賀	岩手県和賀郡湯田村字細内	横黒線湯田駅下車 北方徒歩約500m, 坑口まで自動車を通じる	月平均出炭 約 400t
湯 田	〃 〃 字中村	〃 湯田駅続き 貨車積み	〃 〃 1,000t
平 和	〃 〃	〃 〃 南西方徒歩約1km, 坑口まで自動車を通じる	〃 〃 450t
平鹿田代沢坑	秋田県平鹿郡山内村字田代沢	〃 黒沢駅下車 北東方徒歩約2km 不便	休 山

は、異常は認められない。

1. 緒 言

昭和34年7月30日から8月6日まで、秋田・岩手の両県にまたがる平鹿炭田の稼行炭鉱を主とし、その他既知の各炭層について放射能異常の有無を調査したので、ここにその結果を報告する。

2. 位置および交通

第1表に示した。

3. 地質および炭層

本地域の地質層序は北村信^{註1)}によれば第2表のとおりである。

本層中には、A1～A5とB1～B5の約10層の炭層が

知られ、そのうち現在稼行されているものは、B1、B5の2層でその他は連続性に乏しく稼行の対象になっていない。ただ僅かにA3層が一時稼行されたのみである。

4. 放射能測定

4.1 測定方法

測定器はDS-277型を使用し、稼行炭山の坑内を主とし、その他は一部露頭において、測定しようとする部分に機器を接触させて測定した。

4.2 測定結果

各炭鉱の坑内における各炭層の測定結果は第3表のとおりである。

露頭における各炭層の測定結果は第4表のとおりである。

* 仙台駐在員事務所

註1) 東北大学理学部地質学古生物学教室

第 3 表

炭 鉱	測 定 炭 層	測 定 値 (mr/h)
西 和 賀	稼行炭層は B3 (本層)	坑外 0.012 坑内 0.008 ~ 0.012
湯 田	稼行炭層は B3 (本層) で, その他 B1, B2, B5 (下層)	外 0.0125 内 0.008 ~ 0.012
平 和	稼行炭層は B3 (本層) と B5 (下層) で, その他 B1, B2	外 0.0125 内 0.008 ~ 0.015
平鹿田代沢坑	稼行炭層は B5 ?	外 0.01 ~ 0.012 内 0.012

第 4 表

露 頭	炭 層	測 定 値 (mr/h)
1	A 3	0.009
2	A 4	0.015
3	B 3	0.01 ~ 0.0125
4	B 5	0.0125 ~ 0.015
5	B3 ?	0.011 ~ 0.012

5. 結 語

平鹿炭田の稼行炭鉱の坑内を主とし, その他露頭によって各炭層の放射能測定を行なった結果は, 異常は認められない。(昭和34年8月調査)

文 献

- 1) 北村 信: 秋田, 岩手県平鹿炭田調査速報, 地下資源調査所炭田速報, No. 33, 1949